

ハイリスク児に関する研究

(分担研究：ハイリスク児の予防に関する研究)

研究協力者：藤村正哲

要約：産科と新生児科を有する大規模周生期センターの過去12年間のハイリスク新生児の母体の妊娠・分娩合併症の出生週齢別入院実数、および同死亡率を調査した。実数では一般の早産の原因である切迫早産、前早期破水、子宮内感染症などが多く、また胎児の緊急状態を示す胎児仮死、胎盤早期剥離、そして胎児の先天異常を多く含む羊水量の異常、胎児奇形などが多い合併症であった。週齢別合併症別死亡率では各合併症によって特徴的な死亡率を認めた。

見出し語：早産、妊娠合併症、分娩合併症、死亡率

【緒言】 周生期センターのNICUに入院する新生児は、院内出生では早産児が多く院外出生例では成熟児が多いことは周知の点である。われわれの施設の場合、早産児の大多数は母体搬送であり、早産のハイリスク因子を検討するのに適当な症例が多い。そこで本研究ではNICUに入院した新生児について、在胎週齢別に母体妊娠合併症の解析を行った。

【研究方法】 1981年から1992年までに当新生児科(NICU)に入院した新生児3,558名の母体の妊娠分娩合併症を、診療録を用いて調査した。複数の合併症があるものはそれぞれをひとつと数えた(したがって表の数値は延べ数である)。

【結果】 早産児の妊娠合併症を、頻度の多いものから順に出生体重別に挙げると、表1 のようである。またそれぞれの週群における死亡率を合併症別に検討した結果を表2に示す。

頸管無力症 32週未満の各週に均等に分布している。死亡率は低い群に属する。

切迫早産 35週未満の妊娠各週において実数で最も多い妊娠合併症である。死亡率は低い群に属する。

胎児仮死 全妊娠期間を通して均等な分布を示す。死亡率は29週未満では他群と差がないが、それ以降の出生では比較的高い。

前早期破水 29-32週に多い。死亡率は25-28週で非常に低い。

子宮内感染症 28週以前に多い傾向を示す。25-28週の死亡率は前早期破水群と並んで低値である。

羊水過多 27,28週と33,34週に2峰性の分布を示す。死亡率では全妊娠期間を通して最も高い群に属し、特に35週以降では格別に高い。

羊水過少 27-34週に多い。死亡率は全妊娠期間を通して高く、妊娠後期では特に他の合併症と比べて高い。

前置胎盤・低置胎盤 29-34週に多い。死亡率は比較的低い。

胎盤早期剥離 25-34週に多い。29週以降にも中等度の死亡率がみられる。

胎児発育遅延 27週から増加し31,32週がピークである。死亡率は全期間を通して中等度であり、特に28週未満では高い群に属する。

多胎 29-34週に多い。死亡率は中等度である。

胎児奇形 33-36週に特に多い。死亡率は検討した合併症の中で最も高い群にあり、特に妊娠後期に高い。

高年初産 29-34週に多い。死亡率は最も低い群に属する。

妊娠中毒症 中期にはほとんどなく、29週以降で均等にみられる。死亡率は中期で比較的低く、後期で中等度である。

表1 NICU入院児の妊娠分娩合併症(在胎週齢別)

出生在胎週齢	23-	25-	27-	29-	31-	33-	35-	37-	39-
頸管無力症	43	39	49	63	82	15	8	8	6
切迫早産	67	149	241	265	341	204	95	66	46
胎児仮死	23	61	87	91	95	97	65	60	82
前早期破水	41	46	53	71	111	65	30	34	50
子宮内感染症	37	47	55	43	43	17	5	3	9
羊水過多	7	10	25	15	12	32	17	9	5
羊水過少	6	12	18	17	12	16	5	7	6
前置胎盤	2	6	12	17	27	21	14	3	1
低置胎盤	4	14	17	6	18	10	1	3	1
胎盤早期剥離	9	20	35	32	34	35	13	12	9
胎児発育遅延	3	22	46	74	72	106	78	66	35
多胎	26	23	50	70	105	71	32	14	9
胎児奇形	1	2	4	8	7	23	18	9	8
高年初産	8	23	20	36	36	35	9	16	31
妊娠中毒症	4	9	32	61	78	83	67	35	35

表2 妊娠分娩合併症と死亡率(%) (在胎週齢別)

出生在胎週齢	23-	25-	27-	29-	31-	33-	35-	37-	39-
頸管無力症	42 %	18 %	2 %	0 %	1 %	0 %	0 %	1 %	0 %
切迫早産	39	17	9	3	4	3	6	6	0
胎児仮死	48	23	20	9	11	6	11	10	4
前早期破水	41	9	9	4	0	5	3	15	6
子宮内感染症	41	13	7	0	0	6	0	0	0
羊水過多	100	70	36	13	25	4	35	67	25
羊水過少	83	42	44	12	33	19	20	14	33
前置胎盤	0	33	17	0	0	14	0	0	0
低置胎盤	50	36	6	0	6	0	0	0	0
胎盤早期剥離	22	20	14	3	6	6	15	0	0
胎児発育遅延	60	41	22	9	7	4	8	6	20
多胎	59	26	20	1	7	4	6	7	0
胎児奇形	100	50	50	38	57	26	33	44	38
高年初産	38	26	5	3	8	0	0	0	0
妊娠中毒症	50	33	13	8	5	2	7	3	3

【考察】

①前早期破水や子宮内感染、そして切迫早産を示した妊娠の児の生命予後は比較的良好な群に属した。

②胎盤早期剥離や胎児仮死など、急性の胎児異常状態があると、妊娠中期でも死亡率は高い傾向があり、さらに後期分娩例でも高かった。

③致命的な新生児疾患が高頻度であることが予想される胎児異常を主訴とする妊娠、及び羊水量の異常では、死亡率が妊娠後期に至っても高値であった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:産科と新生児科を有する大規模周生期センターの過去12年間のハイリスク新生児の母体の妊娠・分娩合併症の出生週齢別入院実数,および同死亡率を調査した.実数では一般的早産の原因である切迫早産,前早期破水,子宮内感染症などが多く,また胎児の緊急状態を示す胎児仮死,胎盤早期剥離,そして胎児の先天異常を多く含む羊水量の異常,胎児奇形などが多い合併症であった.週齢別合併症別死亡率では各合併症によって特徴的な死亡率を認めた.